



各町の人々によって大事に受け継がれ、守り続けられてきた勇壮な舞は、三春の人々の心をつなぐ風物詩として、見る人の心を今も躍らせ続けています。

一つの町に三つの長獅子 全国でも稀な伝統芸能

全国でよく見られる獅子舞は、一人ずつ獅子の頭(かしら)をつけて舞う「一人立ち」か、頭と体を二人で担当して舞う「二人立ち」がほとんどです。一方、三春町の長獅子は、なんと10人以上で一体の獅子を踊らせます。この勇壮な舞が一つの町に三つも残っているのは全国的にも非常に珍しく、いずれも町の無形民俗文化財に指定されています。

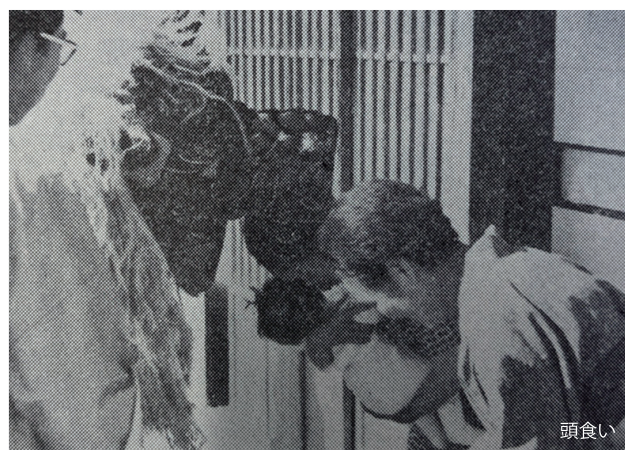
町内の長獅子舞は八雲神社(荒町)の歴史が最も古く、田村大元神社(新町)、八幡神社(八幡町)の二組はいずれもここから伝授されたとされています。

長獅子の動きに込められた 意味と風習を知る

①【頭食い】…「頭食い(あたまくい)」は獅子舞がとる代表的な動作のひとつで、獅子の頭(かしら)が人や対象物にかぶりつくように動くことを指します。この動作には、無病息災や健康祈願、邪気払いといった意味が込められており、見物客や地域の人々に幸福や庇護をもたらすと考えられています。

②【おこしかけ】…お祭りの際に神様が長獅子と共に神輿で町を巡る途中、地域の家庭などに立ち寄りひと休みする場所を「おこしかけ」といいます。神様をお迎えし、お休みいただくための大切な役割を果たします。

③【大祓いと辻】…大祓い(おおばらい)には「場を適切に清める」という意味があり、民俗芸能では、獅子舞などを通して場を祓い清める行為を指します。特に「辻(つじ)」＝道の交差点・角は、人やものが行き交う境界として、霊的にも異界とつながりやすく、邪気や魔・もののけが溜まりやすい特別な場所とされてきました。そのため、地蔵や道祖神を祀ったり、長獅子がお祓いを行ったりして、地域の安全や人々の無病息災が願われてきました。



頭食い

● 無形民俗文化財とは？

無形民俗文化財とは、地域で長く受け継がれてきた祭りや行事、民俗芸能を指します。三春町では三つの長獅子をはじめ、計13の祭りや獅子舞が町の無形民俗文化財に指定されています。

● 髭を拾う？

長獅子が激しく舞う際に、獅子のたてがみや髭の一部が落ちることがあります。地域の人々は、それを拾って神棚に飾ったり身につけたりすることで、「一年間、無病息災でいられる」と信じる風習があります。